昭和五年三月廿一日
（第三種郵便物認可）

昭和十年三月三十一日 〔日刊〕 新いわき 〔日曜日〕 第一千四百三十三號 （一）

三月三十日 夕刊

日刊 但日曜祭日翌日休
郵税十一ヶ月二十五錢 一部二錢
廣告料一行四十錢
廣告所指定 貳拾錢增
發行兼編輯印刷人 半谷政喜
發行所 福島縣平町大町二三 新いわき新聞社

依然殺氣充ぎる 植田の殺傷事件

仲裁者中田氏と數次の會見 斡旋奔走も結局徒勞か

大爭擾事件勃發？ を豫想される植田町は全町に殺氣充ぎり平署から應援の横山平署長以下武裝警官隊四十名は同町要所〳〵を固めて萬一に備え徹宵警戒中であるが此れより先二十九日金成錦村長、坂本植田組頭、湯本町渡邊長作外二名の調停者は兩者の間を奔走午後一時片寄植田署長と共に中田組の本陣山田屋旅館に中田組の總帥中田梅西郎氏以下幹部と會見調停を申し入れたが中山氏自身がどの程度の條件を以て解決せんとしてゐるのか中山氏自身の意見を聽きたいと云ふので調停者側は一時みどりに引揚げ協議の上再度午後六時山田屋に中田氏と會見、仲裁人に白紙で一任されたいと申し入れたが遂に不調に終り同夜半三度調停者側と中田氏の會見あつたが依然として解決の曙光見えず不穩の空氣に包まれて三十日を迎えたが中田組側は飽まで中山氏自身から解決の條件提示を求め當方からは條件は出さないが男と男との話合ひだから筋が透る話しなら直ぐにも解決するし、理由によつては今後の中山氏の事業も應援してやるが筋が透らなければ何處までも爭ふと强固な態度を持して居り、何せ天下の中田組として全國的に知られ殊に鶴見大爭擾事件の中心人物たる中田氏が乘り出して來た以上解決は容易の事でないらしく川崎市の中田組麾下の腕利五十餘名の外小金井小次郎三代目の相續者渡邊國人氏以下各地から中田組應援の連中が續々詰めかけ既に百餘名に達してゐる

喜悅に燦く

磐城高女入試合格者

縣立磐城高等女學校は三十日午前十時縣立磐城中學校は同午後一時半各れも入學試驗合格者を發表した

一組

佐々木スメ 宗像政子 松本サク 齋藤キミ子 坂本愛子 小園井佐藤マキ 石井ヨシ 渡邊起位端美 海老根悅子 江尻シツ 丸幸子荒靜枝 下遠野濱子 若松作山リカ 古市ミサ子 根本トク愛子 倉兼節子 鈴木ヨ吉田榮子 菅野ミネ 鈴木ネ 小林泰子 鳥海珠木恒子 池田知惠子 馬目喜楠田ナホ 福來幸子 安藤憲子久子 渡部ヤエ 牧田江尻和子 白澤喜代子 金澤敏 志賀勝代 林淑子安藤幸 石田トシ 關內義子久江 渡邊泰子 鯨岡阿美子三浦淺子 五十嵐松枝 矢吹道子 木幡和子 立花愛子秋山澄子 戸田たま

二組

佐川かつ子 高野作子 白土貞子 小野喜子 原田カツ子荒川とし 高木百合子 平澤澄江 野崎キミ 星野八千代志賀昌子 渡邊アキ子 渡邊キミ子 會田滿喜子 長岡都萩野幹子 小野フミ 宮澤トミ良子 西丸千枝子 佐藤惡美子 村田志村フジ 小野みゆき 伊關ハナ 小高康子 坂本良子鈴木千代 平澤康子 加藤信子 瀧川滋子 北島光子 馬目靜江 長谷川文子 渡邊昌金賀ハナ子 鈴木政子 簿葉久子 五十嵐ノリ 藤沼シゲ芳賀澄江 青山佳子 金成ミチ 伊東ミス子 加藤つな江連尙子 高萩照子 畠山京中村春子 高柳喜代子

三組

遠藤芳枝 本杉信子 高木泰子 齋藤光子 田邊溫子 端山多賀子 樋口道子 若松ホ 長瀨キヨ子 大高トミ石橋君江 齋藤七子 鈴木スバ子 長瀨喜美 高木民子松本綠子 根本ツネ子 平澤ウタ 瀧澤芳子 堀喜代子吉成郁子 柴田加代 志賀英子 上遠野マス子 新妻好子 鈴木とみ 神永春枝尾美佐子 張文子 高萩フク柴田イサ子 木澤文子 野崎喜代子 高木春枝 平澤タカ高橋澄子 宮川芳子 安田タマ 渡邊セキ子 箱崎綾子柳原キクエ 佐川秀 篠原和子 松本チヨ 君島福子高田千代 小野八重 鴨志田ツヤ 大橋彌榮子 畠山國

四組

長谷川スミ 大友ツネ 湊恒子 渡邊彌生 渡邊良子 赤津シズエ 北郷春江 赤坂き石川清子 高木淑子 根本いま 千葉とし子 關谷足代 山名幸子 遠藤テルエ 玉木高橋トミ 白土公子 市川スミエ 渡邊敏子

磐城中學校入試合格者

小林正一 青木稔 橘榮一郎木村博 高木秀樹 小松三良菊地幸雄 渡邊宗二郎 遠藤好美 宮本重男 矢島三郎和田壽一 鈴木英雄 青田春美 根本政明 櫻井勝英 下山田民部 野木實 石川昌之佐々木高滋 小野袢 高木直毅 吉田耘平 有坂幹夫 萩原竹夫 鈴木清 畑谷利雄根村勳 相馬司 久保田正道橘久 坂本裕光 伊藤源兵衛田名網得平 沼田明正 鈴木晉平 松本十一 比佐公一安藤魔夫 山崎國彥 青木利政 鈴木末男 三浦貞美水野晧市 高木秀樹 大平千里 篠山達兒 松本傳二郎室田祐 野村智一 若松康平大平洋 立花久幸 名倉弘二新妻賢司 鈴木健一郎 鈴木新 渡邊辰夫 菊地宗俊 赤津亘 西山章 根本昌弘 馬目智夫 仲野盛雄 志賀泰野木明 矢代弘之 成瀨大介中山立郎 清水重政 菅波大十一 小山弘文 富田直彥高木四郎 丸山勝慶 根本久行 丹喜代松 木田賢 齋藤善之 富岡歲雄田敦 青天目敏夫 阿部蕉小林博 遠藤英夫 古口雲平熊坂二郎 鯨岡明 臼井正海野重雄 佐藤豐 佐々木清杉本光男 木田宏 草野遂柏木侃一 根本房夫 中島宏幸男 小谷野 術義 吉野善彌 酒井豐 若松筒井重工門 鍵谷徹三 千葉常敬鈴木篤 倭文滿 西山正總一郎 鈴木將夫志賀信利 白岩誠 本間龜吉 佐藤光雄 齋藤重三 佐藤喜一 川上保忠 金子尙平 關內幸平 築館寬 齋藤卓兒 福田節 齋藤考一 佐藤敏雄 國井清美赤津友三郎 北野長一 石井重一 高木寬 村上行 山田光夫 會川公平 箱崎磐根遠藤洋之助 芹澤幹夫 佐藤信郎 仁平敏雄 青木伯光千葉仁郎 石田友宏 白土健平山英夫 鈴木秀枝 小野勝長谷川八郎 鈴木一郎 吉村進 小林勳 坂木秀雄 松崎惣兵衛 吉田悟 栗城敏男畑和夫 高階文三 堀川重明相川達雄 瀧口勝久 星敏之杉田要司 木村重雄 鈴木將正辰 中川仁 松本周司 草野半谷正文 木原一成 渡邊英雄一 今田實 渡邊好則 木下竣良平 馬目順 渡邊善助 草野內二郎 大野光男 宮吉田博 齋藤恒彰 齋藤定良鯨岡道夫 小林靖

五組

寺門たま 高木絢子 小曾納せき 小野芳枝 鈴木邦子大和田順子 戸來曉子 山口友子 箱崎光代 伊藤ミヨ中村幸子 白土マサ子 木村五十石智子 加藤キヨ飯塚サト子 野村フサコ 山田ミヨ 中澤清子 菊地富貴子 曾根絹惠 大場トシ子鈴木とき子 大原テイ 佐藤君子 佐藤秀子 馬目瑞子關ハナ 色川富子 廣澤登貴子 橋本喜代子 木村ユキ子佐川イツ 鈴木スエ 福島あや子 渡部ミツ 吉原鈴子生田壽美枝 清水京子 大瀧淳子 鈴木勝江 大和田キミ橘フミ 飯島喜久子 大方八重子 佐藤靜枝 矢代綾子桑田隆子 森清子 鳴原みや

以上二百四十九名

常識講座

エキスパートは熟練家とか老練家とかのことで彼の君は事務についてのエキスパートである或はまた彼の記者はジャーナリストとしてのエキスパートなど〳〵使はれる單にエキスは精

結婚の祝酒に醉ひ 老爺の極樂往生

高砂や……を謠ひながら 小川江筋に轉落溺死

平窪村大字中平窪新妻辨三さん（六九）は昨二十九日親戚の結婚式に參列一杯氣嫌での歸途午後八時頃同村役場前を通行中小川江筋に轉落溺死今三十日下流に押し流されて溺死体となつて浮き上つてゐるのを通行人が發見騷ぎ出た平署から菊地部長出張檢視の上で死体は家人に引渡した

宛ら小さな城廓 赤井村の萬靈廟

混凝土の外壁を完成して 納骨堂の築造に着手

石城郡赤井村の特志家田久彌七氏の佛心に計畫される磐城靈山萬靈廟の建設は敷地約二百坪を宛然小城廓の如く取圍むコンクリート洗ひ出しの外壁を完成して廓內納骨堂の築造に着手したが同氏が全くの單身で地方有志の贊助に奔走することから工事の指圖に至るまで努力されてゐる現はれが着々と形を整へ今月下旬中に於て特に同建設に對し力を寄せられてゐる贊助有志に現在の出來方檢分を請ひ計畫の實況を認めて貰ふ筈であつたが境內の整地から庭樹の配植及び石燈籠の建立に當つて時適々暴風と降雨に出會し豫定の遲延を余儀なくされたので來月初旬中に右有志の檢分を請ふ由であるが現在の出來榮えが既に地方稀に見る納骨堂であることを語られてゐる

拾遺歌中題詞の『さはとのみゆ』は 現今の湯本（原名新町）に懸く

（飯坂溫泉元湯の鯖湖に强引、建碑せるは無稽、不當の極み）

〔20〕 鮫川刺史

但だ其の歌の讀み人が知らぬ爲、是の詠年を定めえまいのは甚だ遺憾である。然らば此の歌集の撰年から之を推測し、併せて該の題詞、歌辭に云ふサハコてふ處をも搜索したい。是れ本歌を以て其の關係地を史的に考察し、且つ之を地理的に價値つけるべき重要の問題だ。

抑々我が國に於ける勅撰歌集の初纂は彼の「萬葉集」で、此れは雄略帝（二十一代一一一七）の御世より奈良朝に入り、即ち淳仁帝（四十七代一四一九）の御宇に至る三百年間の和歌約そ四千五百首を收め、其の撰者は明確を缺くが按ふに天平寶字（一四一七—一二四）天平神護（一四二五—二六）の前後、中納言大伴家持が撰輯、未完と專ら評され現存歌典中、最古、貴重のものである。

次ぎは延喜五年（一五六五）に「古今和歌集」を撰び、延長四年（一五八六）に至つては「新撰和歌集」が出で、承平七年（一五九七）に及び「古今和歌六帖」が編まれ、天暦五年（一六一一）に「後撰和歌集」を纂した。

鈴木部長 病氣重態

表彰式の歸途 車中で發病

平消防組庶務部長鈴木長三郎氏は晴れの表彰式に參列昨二十九日井上組頭以下の一行と共に歸平の途中列車內で突如平驛着と同時に俄然重態に陷り南町玉よしで靜養中であるが病名は狹心症、同夜は危險狀態を續け石山博士の徹夜療養を受けたので今三十日早朝はやゝ小康を呈してゐる

產業部會總會

今三十日マルトモ樓上にて

石城產業部會では今三十日午前十時から平町マルトモビルに於て總會を開き豫算並に十年度事業案を協議

花卉類の温室經營

3　次へで切花用のアスターの栽培

アスターと云つては判らぬ方もあるでせうがこれは紫苑（えぞぎく）のことです、また別の名にサツマ菊とも呼ばれて居ります、此の栽培は古へから行はれて居るがハクライもので年々改良されて現在では澤山な種類が出來て居ります、切花用としての栽培が最も容易であつて需用の點から云つても相當の利益を得られるものは米國系統の菊咲中生種、インベンシブルアスターである、技打性のものや俗に云はれてゐるチャンなどは避けたいと思ひます、切花用としては帶立性のものが一番よくこれに限るやうである、

播種の時期であるがアスター即ちエゾ菊は播き付けてから大低百十日くらゐで花が咲きますから切花用として市場に出荷するなら云ふまでもなく家庭に於ても何日頃入用かを定めて種子を播くのであるが普通は大低春の彼岸に行はれ寒い地方では五月中に苗床か又は蒔鉢に厚くならないやうに蒔いて本葉がカイワレから二三枚出た頃に一回植えてやるのであります、間隔は一寸五分ぐらゐでよろしい、その後三、四寸にのびたならば目的の鉢なり花壇なりに本植えとするのであります、然し相量多量を植える場合はこんな面倒なことは出來かねませうから最初から畑に蒔きつければそれだけ手數が省ける譯であります、

牛も豚も優良品の自慢

肉の御用命は　三三屋　平町昭町

平町紺屋町

藤沼醫院

電五〇七番

內科、小兒科

入院應需

大森醫院

醫學士　大森勇

平町南町　電二五八番

一、本科　五拾名　二、裁縫專修科百名
三、專攻科三拾名　四、師範科　貳拾名
五、本科裁縫專修科二學年補缺若干名

文部大臣認可　藤田女學校　生徒募集

◎願書受付三月卅一日まで
◎詳細は學則請求のこと

平町田町（電話三二八番）

好評噴々　たる各種優秀藥

強力流經劑（定價二圓、三圓、五圓、十圓）

治淋新劑トリックス（定價二圓、三圓、五圓）

動脈硬化症特効藥

（中風豫防藥）

Aアイヨー錠（定價二圓、六圓、二十圓）

Bトーゲン（定價二圓、三圓、五圓、十圓）

特約店（平町五丁目通り）山野邊藥局

學習院型ランドセル

サイゴー印學生帽

女學生用手提カバン

入學用品店陳列

入學ト進級ノ準備ニ念入ニ吟味セル實用品揃イ

ヤルツ

平四・電一四〇

・玉付ノ石板ガ樂ニ入リマス…・九五錢ヨリ

・福助運動靴景品付賣出中

安價で効果的な天然加里肥

最も適應する作物！

蔬菜　馬鈴薯　里芋　しやうが類

◇茄果類ではトマト茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます

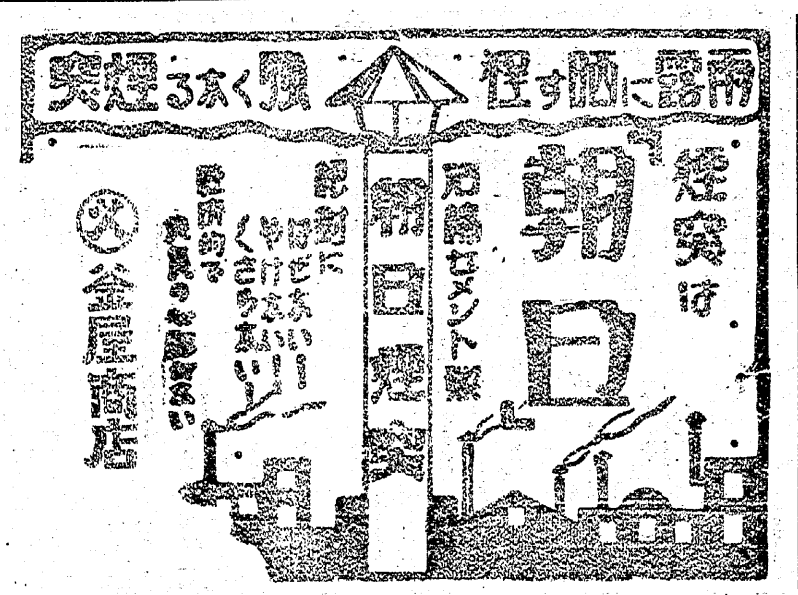
天然加里肥は酸性でないから

◇如何に施用しても土壤を惡變する虞は絶對にありません

一俵　參拾錢（大量取引は特に割引致します）

製造販賣　金成國雅　平町鍛冶　電話六八八番

貨物自動車（トラック）の御用命に應じます



耳鼻咽喉科專門

醫學士　鈴木正男

平町田町（電話五八番）藤田女學校前

入院應需　鈴木醫院

新設、電話二二二番

何卒御利用の程を……

平町紺屋町一一

上原家政婦會（產婆）　上原通子

（磐城共濟病院）福島縣平町電六四一

內科　院長　醫學博士　石山謙郎（電話六四一番）

小兒科　部長　岩手醫學士　平賀一忠

產婦人科　副院長　醫學博士　五十嵐雄二（電話三七〇番）

外科耳鼻咽喉科　部長　醫學士　大町久藏

皮膚泌尿器梅毒科化粧品科　部長　醫學士　前澤正（電話二七二番）

X光線科　醫學博士　石山謙郎

物療科　技術員　石山利彥

衛生試驗所　獸醫　高後孝雄

藥局　藥劑師　吉本平

事務長　鈴木寶雄

（毎日午前八時より午後十時迄診療）

●……病室完備……入院隨意……●

石炭　コークス　豆炭

平町郵便局通り

水野石炭店

電話二九九番

鼻の諸病に快鼻湯

有効保證

本劑は漢法醫の方劑で鼻病の爲め種々の外用藥並に內服藥を用ひ全治せざる方々及び手術後再發されし方々も本劑の服用により快癒された喜びの禮狀が各地から參つて居ります

効能　蓄膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多過症、頭重、肥厚性鼻炎、その他鼻骨彎曲症、並に中耳炎に神効の賞證を受く

（快鼻湯）製劑販賣元　水野藥局

磐城平町一丁目（電話六九九番）

振替口座仙台（八八七六番）